

僕は數年前より胃を損じ、其後慢性となつて、
地方醫の姑息的治療では治する見込がないか
ら、名醫の診察指揮を受けんと、客年末大學
病院某博士の自宅にて受診の結果、神經衰弱
並に胃酸過剰の症、胃擴張症の併發症で過激な
る運動讀書等は不可なるが、繪畫と音樂とは
害少きのみならず寧ろ勧めると云はれたの
で、繪畫を見て快に感ずる趣味は前より有し
たから、道樂的にやつて見る事を決心した、
さて日本畫は筆法が面倒だと云ふ話だから趣
味多き洋畫をやる事にし、先づ水彩畫を習ふ
事として、東京堂にて大下先生の水彩畫階梯
及び種々なる臨本類を參考として買ひ取り文
房堂にて極めて節約して用具一式を整へたの
が動機となつて、引續き紺屋繪的の畫を作つ
て獨りて楽しんで居ます。

○
陽炎かほろよや古塔ことうの下を千萬せんまんの蟻騎ぎきは急ぎぬ地國ちこく
の亂らんに

□曉海曲

北多摩郡 山本野琴

海天とほく東の
彩よ榮えある紫の、
帷くづれてまぶしげの
眞紅の光、映る見よ。
遠くなつては近うなり
近うなつては遠くなる、
朝光みつる波よその
悠々の音によせて來よ。
昨夜、豐漁のまゝなりし
磯舟ゆるよ歡樂ある、
歌音、秘めつゝ今こゝに
おゝ新潮はみちたりな。
濱小家包む靄はれて
具殻屋根のま白きに、
おゝ朝の日はおごそかに
微彩の影をなげられぬ。
島を包める靄はれて
曉帆とほく影白く、
金線ちかくたゞよふて
明の鷗の羽根に映るふ。

□まあこんな面白いものが

麻布 I 生

自分は元來日本畫がすきて田舎に居つた時分
などは殊に熱心であつた、然るに、東京へ來
てから、ふと或る友人が自作の水彩畫を自分
に、示した其の畫は今しも出た計りの大きな
月が地平線近く描かれ、そうして松の木蔭が
奇麗なコバルトで面白く彩どられた月夜の景
であつた、今迄水彩畫と云ふ名すら知らなか
つた自分は、此の畫を見て一種云ふ可からざ
る愉快な感を持つた、「マーこんな面白いもの
があるかしら……」其後はもう日本畫の方
はすつかりお留守になり、其友人が持て來て
は示すのを何より愉快にして居つた、人間と
云ふ奴はどうしても慾の動物『ドーモ人の描
ぬた畫を見る計りではつまらない、一つ自分
で畫く様にならなくては面白くない』と云ふ
様な考を起し早速そこで廿五錢と云ふ舶來の
繪の具を一箱買入れどす黒い畫學紙へあやし
げな筆をなすり初めた。考へて見れば是れが
そもゝ水彩畫と交りを開いた初めなのであ
る。